

(平成 31 年 1 月試験研究業務月報)

試験研究課題：地球温暖化に対応した京都府丹波黒大豆系品種の生産技術の構築

研 究

黒大豆エダマメ「紫ずきん 3 号」種子生産の安定化に向けて

府内産黒大豆エダマメ生産の主力品種である「紫ずきん 3 号」は、発芽不良により生産種子が不合格となる場合があり、良質種子の安定生産技術の確立が急務となっています。

当センターでは、通常のエダマメ栽培より 1 か月遅い 7 月に播種すると、種子の発芽率向上に有効であることを明らかにしました。さらに本年度は、収量向上のために、株間 20~30cm の密植と白色のマルチ栽培*の組合せを検討したところ、発芽率は 90%以上と良好でかつ、収量は、目標の 80kg/10a を上回る 117~132kg/10a となりました。

来年度は、今回確認した発芽率向上と収量確保のための技術を生産現場に普及させ、種子の安定生産を目指します。

※マルチ栽培：土壤水分の維持や地温調節、雑草防除を目的に、作物を植えた地表面をポリエチレンフィルムなどの資材で覆って行う栽培。



白色のマルチ栽培（左上）と発芽調査（左下・右）の状況
発芽試験は、シャーレ内に播種し、25℃条件に置き（左下）、8日後までに発芽したものを計数して発芽率を求めます（右）

農林センター